

## 今後の降灰植生影響調査の実施について

屋久島森林生態系保全センター

### 【現状】

平成27年5月29日の噴火以降、屋久島で降灰が観測された国有林内に調査プロット6箇所を設定し、科学委員荒田洋一氏指導の下15種を調査樹種に選定し調査を行っている。調査は2週間に1回の間隔で実施している。

### 【今後の調査】

降灰植生影響調査においては、降灰に起因する植生の異常は発生していない。

口永良部島新岳の噴火警戒レベルは、依然としてレベル5が継続されているものの、6月19日以降噴火は観測されていない。また、昨年12月25日に全島民を対象に出されていた避難指示が解除され、一部の島民が帰島している。

このことを踏まえ、現在2週間に1回実施している降灰植生影響調査を休止する。尚、今後口永良部島新岳の噴火が発生した場合には直ちに調査を再開する。

### 【現況写真】

プロット別樹種別現況写真（例：プロット1）は別添のとおり

# 口永良部新岳噴火に伴う屋久島の降灰植生影響調査の状況 (H28.1)

屋久島森林生態系保全センター



【宮之浦から見た降灰状況：5月29日】



【シャクナゲに降った火山灰：6月1日】

平成27年5月29日に噴火した口永良部新岳の降灰に伴う屋久島の降灰植生影響調査のその後の状況等について報告する。

平成27年8月に開催された科学委員会の検討意見を踏まえ、降灰の影響を受けやすい樹種を増やすため科学委員の荒田洋一氏に依頼し、平成27年8月12日の調査から樹種を下記のとおり追加した。

また、調査回数も10日に1回から2週間に1回と降灰量調査と同じ回数（調査日）とした。

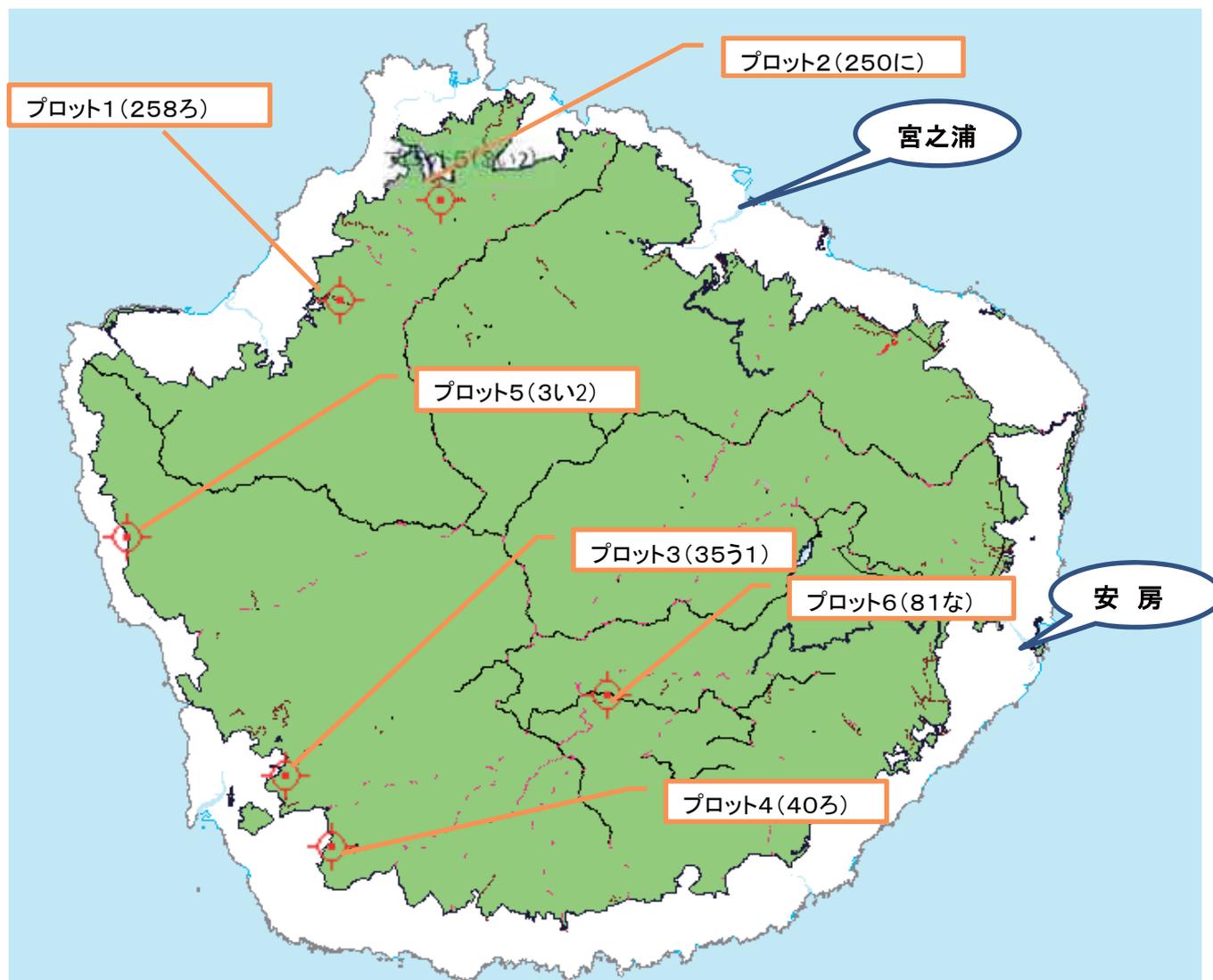
平成28年1月5日現在、紅葉により落葉する樹木はあったが、降灰の影響と思われる異常は見られなかった。

## 植生影響調査箇所プロット別一覧（赤は落葉樹）

（表1）

プロット	調査樹種	追加調査樹種	調査箇所
プロット1	カンコノキ	スギ・ヤマモモ・シマイズセンリョウ・ウラジロフジウツギ	平瀬国有林258ろ林小班
プロット2	ヤクシマサルスベリ	シマイズセンリョウ・ハドノキ・ヤマグワ	白川国有林250に林小班
プロット3	シマイズセンリョウ		黒味国有林35う1林小班
プロット4	アカメガシワ		七五岳国有林40ろ林小班
プロット5	ヒサカキ		平瀬国有林3い2林小班
プロット6	ヤクシマシャクナゲ	ナナカマド・ヤマボウシ・ソヨゴ・モミ	耳嶽国有林81な林小班

## 口永良部新岳噴火に伴う屋久島の降灰植生影響調査 位置図



# 口永良部島新岳噴火(5月29日)に伴う屋久島の降灰植生影響調査

## プロット1

場所： 平瀬国有林258ろ林小班

常緑小高木

調査樹種 カンコノキ

(樹種の特徴)

高木または低木。葉はやや大きく、互生で二列生、花は小さくて葉腋から東生する。雌雄同株または異株だが、花は性別があり、雄花雌花共に花弁はなく、花盤もない。雄花では萼片は6で、内外2列に配置し、蕾の時、互を重ねたように配置する。雄葉は2-8、円柱状に寄り合い、基部は互いにくっつき合う。退化雌葉はないかとても小さい。雌花の萼片は6で時にくっつき合う。子房は3から数心皮あってそれぞれに2個の胚珠を収める。花柱は太短くて基部でくっつきあっている。果実は蒴果で種子に仮種皮はない。

調査日	H27年12月7日(月)	H27年12月21日(月)	H28年1月5日(火)	H28年1月18日(月)
遠景写真				
近景写真				

調査樹種 スギ

調査日	H27年12月7日(月)	H27年12月21日(月)	H28年1月5日(火)	H28年1月18日(月)
遠景写真				
近景写真				

調査樹種 ヤマモモ

調査日	H27年12月7日(月)	H27年12月21日(月)	H28年1月5日(火)	H28年1月18日(月)
遠景写真				
近景写真				

調査樹種 シマイズセンリョウ

調査日	H27年12月7日(月)	H27年12月21日(月)	H28年1月5日(火)	H27年11月24日(月)
遠景写真				
近景写真				

調査樹種 ウラジロフジウツギ

調査日	H27年12月7日(月)	H27年12月21日(月)	H28年1月5日(火)	H28年1月18日(月)
遠景写真				
近景写真				